

温暖化に打ち勝つ なのはな米を作ろう!!

～「R8 JAなのはな米品質向上運動」実施中～

記録的高温に対応し、稲体活力維持のための 出穂直前の『追加穂肥』と作業計画の前倒し、 出穂後20日間の湛水管理を行いましょう！

1. 肥効調節型基肥栽培での『追加穂肥』

◎稲体活力の低下による白未熟粒の発生や、収量低下が懸念されることから、出穂直前の葉色が淡い場合は、『追加穂肥』を積極的に施用してください（穂揃期の葉色の目標4.2～4.5）。

品種	葉色の確認時期	葉色診断基準	追加穂肥対応※
コシヒカリ	出穂7日前 (走り穂が みられる頃)	4.0以下の場合	追肥3号を 5～7kg/10a 速やかに施用
富富富		4.2以下の場合	

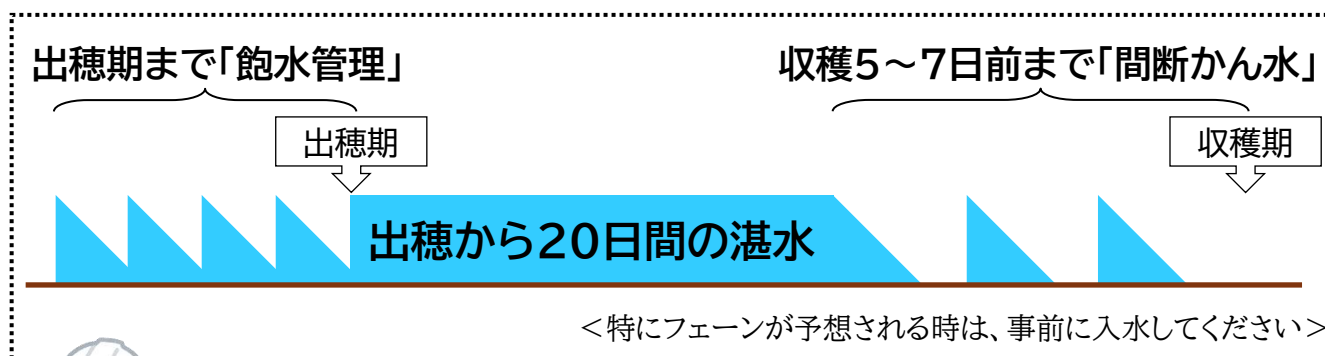
※『追加穂肥』は遅くとも出穂3日前までに施用して下さい。

2. 作業計画の前倒し

◎記録的高温により、水稻の出穂期・成熟期はかなり早まると見込まれます（コシヒカリの幼穂形成期：平年より6日程度早い）。追肥、病害虫防除、刈り取りについて、作業計画の見直しを行ってください。

3. 水管理

◎出穂から20日間は湛水状態（田面が出ない程度）を保ち、稲体の活力を維持しましょう。 ※高温時は、こまめな水の入れ替えを行いましょう



熱中症予防のため、作業の合い間に
こまめな休憩と水分補給を行いましょう！



←農林水産省
熱中症対策 HP